



インフォメーション・コーナー

会 告

○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	92
○CPD 機構から重要なお知らせ (再)	93
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	93
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	93
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局	95
○第75回中国四国支部講演会 (オンライン) の参加登録・開催の遅延 (第4報)	96
○令和2年度応用水理研究部会講演会の開催  発表原稿締切 11月13日	96
○第57回材料施工研究部会シンポジウムの開催  参加申込締切 12月1日	96
○第29回微粒化シンポジウムの開催 12月17, 18日開催	97
○第16回バイオマス科学会議の開催 2021年1月20, 21日開催	97
農業農村工学会論文集 内容紹介	98
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介	99
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧	101
学会記事	102

第88巻第12号予定

展望：宮川賢治

小特集：農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲 医師を偲ぶ—

報文：アジア開発銀行、エジプト、メコン河委員会での社会実装：北村浩二

報文：ラオスにおける焼畑二次林の評価と地域資源管理：木村健一郎ほか

報文：アフリカの小農を対象とした各種技術複合の実践：新保義剛

報文：海外村づくりプロジェクトが残したもの：進藤惣治ほか

報文：中村医師が“山田堰”を基にアフガン沙漠を緑の大地に拓く：徳永哲也ほか

報文：女性グループによる村のため池を利用した野菜向け灌漑：岡 直子ほか

報文：営農排水改良「カットシリーズ」の海外展開への取り組み：北川 巖ほか

技術リポート

北海道支部：細霧冷房システムを導入したハウス栽培の調査事例：南部雄二ほか

東北支部：和賀中央地区における『用水の見える化』の検討：堂元咲子ほか

関東支部：群馬用水管理50年間における水路の施設機能の強化：稲木道代

京都支部：県営農地環境整備事業曾爾地区の生態系保全施設：飯田昌弘ほか

中国四国支部：愛媛県における地域特性に応じたため池防災対策：近田昌樹

九州沖縄支部：管推進工法を活用した水路トンネルの施工事例：秦 祐二

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年11月 9～22日	東北支部	令和2年度総会・第62回研究発表会・ 第52回研修会・第42回地方講習会	—	Web形態	88巻6,7,8号
2020年11月 12～25日	九州沖縄支部	令和2年度支部大会	—	Web形態	88巻4,9号
2020年11月 18日～	関東支部	第71回支部大会	—	Web形態	88巻6,8号
2020年11月 28日	応用水利研究部会	令和2年度講演会	ⓑ 農業農村工学分野における 応用水理学に関する研究	Web形態	88巻11号
2020年 12月(予定)	京都支部	第77回支部研究発表会	—	Web形態	88巻4,6,10号
2020年12月 15日	北海道支部	第69回研究発表会	ⓑ —	Web形態	88巻9号
2020年12月 18日	材料施工研究部会	第57回シンポジウム	ⓑ 近年の豪雨による農業施設 の被害と復旧状況	Web形態	88巻11号
2021年1月 19日	農村道路研究部会	第30回研究集会	ⓑ 農道施設の点検について	Web形態	88巻10号
—	中国四国支部	第75回講演会	—	Web形態	88巻5,8,9,11号
—	水文・水環境研究部会	第33回シンポジウム	—	誌上発表	88巻10号

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2020年度の学生会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

- ③ ①, ②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

CPD 機構から重要なお知らせ (再)
農業農村工学会継続教育部



1. 2019 年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版) は pdf の掲載となります

CPD 登録者様へのサービスとして、前年度分の「CPD 取得一覧表」について、紙媒体による発送(8月に途中経過版・11月に最終確定版)と、Web上のpdfでの掲載(11月の最終確定版のみ)をさせていただいていましたが、CPD 登録者様へのサービス向上と新型コロナウイルス感染防止による業務遅延を防ぐため、2020年8月に予定していた2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)の発送は行わず、Web上のpdf掲載に代えさせていただきます。なお、2019年度分「CPD 取得一覧表」(最終確定版)は従来通り11月に発送予定です。

前年度の「CPD 取得一覧表」	これまで		2020 年度	
	紙媒体発送	Web 上 pdf	紙媒体発送	Web 上 pdf
8 月(途中経過版)	○	×	×	○
11 月(最終確定版)	○	○	○	○

2019 年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)が必要な方は、2020年8月以降に技術者継続教育機構のホームページ画面から各自、次の手順によりダウンロードをお願いいたします。

- Web システムを利用する > ⇒ Web 利用メニュー画面へ > Web 利用メニューへ > ログイン > ○ CPD 取得一覧表のダウンロード > ○ 2019 年度分一覧表 > ダウンロード

2. 前年度の CPD 記録の申請期限の変更について (2021 年度より)

これまで、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の8月末日」としていましたが、多くのCPD登録者様から「前年度のCPD結果の確定を早くしてもらいたい」との要望があることから、2021年度より、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の6月末日」に変更し、前年度の審査結果の早期確定を図ります。2020年度記録の申請期限は「2021年6月30日」となりますので、研修受講や自己学習の実施後は、速やかにWeb登録をお願いします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例: 学会誌11号掲載の問題は12月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

学会誌第88, 89巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第88巻第12号	農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ— (仮)	終了
第89巻第1号	農業農村工学における ICT 利活用の現状と将来展望 (仮)	終了
2号	中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学 (仮)	終了
3号	地域資源の活用による中山間地域の地域活性化 (仮)	終了
4号	With & Post・コロナ時代の農業・農村のあり方 (仮)	終了
5号	農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策 (仮)	11月10日
6号	研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方 (仮)	12月10日
7号	大会特集号 (東北支部)	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

第89巻第5号テーマ「農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策」(仮)

近年の洪水の激甚化を踏まえ、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう、関係省庁の密接な連携の下、令和元年12月12日に「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針」(以下、「基本方針」という)が策定され、すべての既存ダムを対象に洪水調節機能の強化に向けた検証を行い、一級水系を対象に令和2年の出水期から新たな運用を開始するとともに、二級水系のダムについても、緊急性に依りて順次実行していくこととされました。その後、基本方針に基づき、令和2年5月末までに一級水系109水系のうちダムのある全99水系において治水協定の合意がはかられ、洪水調節機能の強化に向けた取組みが開始されています。その直後の7月には、九州地方をはじめとする全国各地で梅雨前線による令和2年7月豪雨が発生し、関連する多くの事例や課題も浮き彫りにされたと考えられます。

今回の取組みでは、農業用ダムも対象になっています。しかし、ゲートレスダムが多くを占め、管理も土地改良区や市町村で委託管理されている場合が多いことから、事前放流の操作技術への新たな技術的対策が必要です。さらに、利水ダムでは、ダム水位を低下させるための放流施設も大容量なものは多くないと考えられます。農業用ダムの洪水調節機能などの公益的機能の発揮は重要な社会貢献である一方、社会的責任も重大であることから今後の具体的でかつ安全・確実な対応策について、ソフト(降雨予測、事前放流操作技術、水位低下後の貯水管理、AI利用など)・ハード(事前放流のための施設整備など)の両面から十分な技術検討が必要です。このことから、農業用ダムの洪水調節機能の発揮の事例紹介や事前放流を実施する課題とその対応策について、関連の報文を広く募集します。

第89巻第6号テーマ「研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方」(仮)

ここ数年、学会活動の大きなテーマは「人材確保と人材育成」です。これまでに、若手人材の確保のために学会大会講演会時における各種企画やスチューデントセッションの実施、学生会員の2020年度会費等の無料化、農学部系学生向けのLINE公式アカウントの開設、土地改良建設協会との「農業農村工学系の技術者育成、確保に向けた連携協定書」の締結、若手研究者育成のための学術基金の拡充など多くの取組みがなされ今後効果が期待されています。同時に、人材育成の主要な場である大学組織内において農業農村工学分野が適切に評価される取組みも急務です。

近年、学部や修士課程の学生確保は一定の水準を維持しています。しかし、当分野における博士課程の学生数は減少傾向です。そして、最近重要視されている社会人の大学院生数も当分野では伸び悩んでいます。この原因は、魅力ある課題の提示、

多様な就職先の確保と提示、財政的な支援などが十分ではないと言われていました。また、大学組織内における当分野の存在価値の低下は、今後の研究や高等教育を担う人材育成の面で大きな課題です。学術振興の視点に立てば、実学が重視される当分野においても基礎的、先端的な研究は大学内の実績・業績向上のために不可欠です。また大学では、インパクトファクターのある国際誌への掲載実績に重点がおかれ、水土の知や農業農村工学会論文集などの、和文中心で、オンライン学術データベース(Web of ScienceやScopusなど)への登録がされていない論文の業績評価説明に苦慮する実態も報告されています。

このため、農業農村工学の果たすべき社会的使命と人材育成の必要性などを踏まえ、当分野の実績・業績が適切に評価されるための戦略や人材育成のあり方等について、会員から多くの報文を期待します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター (IF) は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・ Editors 11カ国から20名

・ Editorial Advisors 29名

・ Chief Managing Editor

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

・ Managing Editors

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Masayuki FUJIHARA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Toshiaki IIDA

Graduate School of Agricultural and Life Science, The University of Tokyo, Japan

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

・ Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。

す。冊子体の配布はありません。

員番号を明記の上、お申し込みください。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで

第75回中国四国支部講演会（オンライン）の参加登録・開催の遅延（第4報）

学会誌第9号（第3報）で告知しておりましたとおり、オンラインで開催される第75回中国四国支部講演会につきまして、10月より参加登録開始、11月に講演会開催を予定しておりました。

しかし、10/8付けで、サイトの構築を予定していた企業より、本案件の辞退を決定する旨の連絡がありました。これにより、講演会の登録・開催時期、および開催内容についてすべて白紙に戻さざるを得ない状況となっております。

事務局といたしましては、可能な限り早期に、学会誌の告知内容と同様の内容での講演会開催を目指して尽力したいと考えておりますが、開催時期に関しましては大幅な遅延等が予想さ

れます。

参加を検討されている皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなりますが、今しばらくお待ちいただければ幸いです。

新たな情報がありましたら、随時、中国四国支部のホームページ(<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>)で告知させていただきます。

問合せ先

鳥取大学農学部 齊藤 忠臣

〒680-8553 鳥取県鳥取市湖山町南4-101

TEL：0857-31-5391 FAX：0857-31-5347

E-mail：tadaomi@tottori-u.ac.jp

令和2年度応用水理研究部会講演会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



応用水理研究部会では、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して、令和2年度応用水理研究部会講演会の開催方法を当初予定していた石川県金沢市での現地開催からZoomによるWeb開催に変更いたします。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

- 日時 2020年11月28日（土）10：00～18：00
- 場所 Web会議（ZoomのURLを研究部会長よりメールで送信します）
- 課題 農業農村工学分野における応用水理学に関する研究
- 発表時間 1課題当たり20～30分
（発表課題数により調整いたします）

5. 発表原稿

学会講演会と同じA4の様式とします。PDFファイルでの提出をお願いいたします。枚数制限はありません。

6. 講演要旨集

講演会開催までに当研究部会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/ouyousuiri/>) において公開する予定です。

講演要旨集（印刷物）の配付はございませんので、参加される方は事前のダウンロードをお願いいたします。

7. 参加申込み

2020年10月30日（金）までに下記9. 問合せ先まで、以下についてE-mailでお知らせください。件名は「応用水理研究部会講演会への参加申込」としてください。

氏名/所属/所属の住所（郵便番号を含む）/発表の有無/

8. 原稿提出

2020年11月13日（金）を必着として、下記9. 問合せ先まで、ファイルを添付したE-mailを送信、もしくは、ファイルを保存したCDやDVD等のメディアを郵送してください。E-mailの場合、件名は「応用水理研究部会講演要旨」としてください。

9. 問合せ先

〒921-8836 石川県野々市市末松1-308

石川県立大学生物資源環境学部 環境科学科 一恩英二

TEL：076-227-7483（直通） FAX：076-227-7410（代表）

E-mail：ichion@ishikawa-pu.ac.jp

第57回材料施工研究部会シンポジウムの開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 主催 農業農村工学会材料施工研究部会
- テーマ 近年の豪雨による農業施設の被害と復旧状況
- 期日 令和2年12月18日（金）：
第57回材料施工研究部会シンポジウム
- シンポジウム会場
新型コロナウイルス感染回避の面から、「Web形態」でシンポジウムを開催します。

5. シンポジウム・プログラム

- 13：00～13：05 開会挨拶
13：05～13：35 材料施工研究部会研究奨励賞授与式
令和2年度 部会賞選考経過報告
13：35～14：35 <基調講演>

農業用ため池の防災・減災対策

農林水産省農村振興局整備部防災課

課長補佐 細田誠也

14:35~14:45 (休憩)

14:45~15:15 <一般講演>

- (1) 広島県における農業用ため池の防災総合対策 (広島県)

広島県農林水産局農業基盤課主査 御手洗 毅

15:15~15:45

- (2) 小田川沿岸の農業用排水機場の浸水被害と復旧状況 (岡山県)

岡山県農林水産部耕地課防災班防災班長 山本秀樹

15:45~15:55 (休憩)

15:55~16:25

- (3) 西日本豪雨災害からの樹園地再編復旧に向けた取組み (愛媛県)

愛媛県南予地方局産業経済部復興監 保利誠司

16:25~16:55

- (4) 自然災害に対するため池のリスク管理 (愛媛県)

岡山大学大学院環境生命科学研究科 西村伸一

16:55~17:00 閉会挨拶

事務連絡 (現地研修会)

6. 現地研修会

新型コロナウイルス感染回避の面から、今回は実施しません。

7. 参加費

シンポジウム: 2,500円 (参加費無料, 「材料と施工」第57号: 2,500円)

令和2年12月1日(火)までに「9. 振込先」までお支払いください。

※ご依頼人名(振込者名)は参加者のお名前をお願いいたします。

8. 申込み

以下の項目をご記入の上, E-mailにてお申し込みください。その際, 標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記してください。

①参加者氏名, ②所属機関名, ③所在地, ④TEL, E-mailアドレス, ⑤参加費の振込日, ⑥CPD番号(登録希望の方)

9. 振込先

振込口座: 伊予銀行東野支店 普通 1449660

振込口座名義: 材料施工研究部会 代表 小林 範之

※振込手数料はご負担いただきますようよろしくお願いいたします。

10. 申込締切 令和2年12月1日(火)

11. 申込み・問合せ先

〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7 愛媛大学農学部

申込受付担当: 小林範之

TEL: 089-946-9929 FAX: 089-946-9929

E-mail: nkoba@agr.ehime-u.ac.jp

第29回微粒化シンポジウムの開催

1. 主催 日本液体微粒化学会 (ILASS-Japan)

日本エネルギー学会

2. 協賛 農業農村工学会ほか32学協会

3. 日程 2020年12月17日(木)~18日(金)

4. 会場 オンライン開催

5. 問合せ先

〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1

群馬大学大学院理工学府

「第29回微粒化シンポジウム」参加担当幹事 座間淑夫

TEL: 0277-30-1523

E-mail: yzama@gunma-u.ac.jp

6. その他

詳しくは, 微粒化シンポジウムのホームページ (http://www.ilass-japan.gr.jp/activity/sympo_index.php) をご覧ください。

第16回バイオマス科学会議の開催

1. 主催 日本エネルギー学会バイオマス部会

外神田千代田ビル4階

2. 協賛 農業農村工学会ほか21学協会

(一社)日本エネルギー学会

3. 日程 2021年1月20日(水)~21日(木)

TEL: 03-3834-6456 FAX: 03-3834-6458

4. 会場 オンライン開催

5. 問合せ先

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-16-9

6. その他

詳しくは, 第16回バイオマス科学会議のホームページ (<https://www.jie.or.jp/publics/index/732/>) をご覧ください。